

ご意見・ご提案	回答
<p>津名図書館で行われたワークショップ 第2回目のみですが、参加させていただき、ありがとうございました。子育て応援課の皆さんの日頃の奮闘に敬意と感謝を表しつつ、下記の意見を申し上げます。少しでも参考にさせていただけると幸いです。</p> <p>・基本計画策定の起点とされる、平成 19 年「淡路市立小中学校・保育所適正規模等に係る調査」は、答申提出後 20 年近くが経過し、子どもたちをとりまく社会状況や、市民のライフスタイル・価値観にも変化が生じ、小中学校や保育所に求められる役割・課題も変化している。中学校と小学校、保育所が同時に審議対象とされていますが、それぞれに異なる特性があり、子どもたちの教育環境向上を第一に考えるのであれば、行政改革課が審議を主管されたことにも適切だったのか、疑問を感じます。保育所については、子育て応援課が主体となって見直しを行って欲しいです。</p> <p>・上記答申を受け計画策定後、少なくとも 10 年が経過した段階で、ワークショップ形式などを活用し、大人はもちろん、当事者である子どもたちにも可能な限り意見を聞くべきではないでしょうか？市民・行政が共に意見やアイデアを出し合い、率直に対話することが主権者教育にもつながると思います。</p>	<p>第2回ワークショップにご参加いただき、また貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございます。いただいたご意見は、今後の計画策定や取り組みの参考とさせていただきます。</p> <p>・本市では、市制発足後の平成 18 年 4 月から財政健全化を目的として「行政改革推進課」を設置し、統括部署として様々な分野で行政の見直しを進めてまいりました。保育所については、旧町単位で施設数や規模が異なっていたことを踏まえ、平成 19 年度より「保育所等適正規模推進計画」に基づき、保育環境の整備を行ってきました。</p> <p>この間、「子ども・子育て支援新制度」の施行など、子どもを取り巻く環境や施策が変化を遂げています。津名地区の保育環境整備に際しては、地域のニーズを反映した適正規模での整備を進めるとともに、行政だけでなく市民の皆さまと共に「淡路市らしい保育環境」を創り上げていくために、基本構想・基本計画を策定しております。</p> <p>・本計画策定にあたり、専門的な知見を有する建築士からのアドバイスを受けるとともに、保護者の皆さまのご意見の把握、現場の先生方との意見交換、市民参加型ワークショップの開催を通じて、多様な立場の皆さまと共に「子どもたちのより良い育ち」について考えています。これらの検討結果を踏まえ、本市の目指す保育環境のあり方を策定書に反映しております。</p>

・今回統廃合の対象となっている保育所については、接道条件や駐車場などの問題状況が挙げられています、建築された昭和 50 年代から約 50 年。様々な変化に対し、状況を改善させる時間は十分あったのではないかと考えられます。一つ一つの悪条件を克服するにはどれほどのコストになってくるのか、大まかでも具体的な数字を元に議論の積み上げがあったのであれば教えて欲しいです。

・保育所が建築された当時(昭和 50 年代)は、保護者の送迎手段が徒歩や自転車を主としていました。しかし、時代の変化とともに自家用車での送迎が一般的となり、それに伴い駐車場や接道条件の改善が求められるようになりました。これまでに駐車場整備や道路整備を段階的に進めてまいりましたが、施設の老朽化や周辺環境の変化により、さらなる対応が必要な状況となっています。

建物本体や設備については、1 園あたり約 1,000 万~2,000 万円規模の予防保全型改修を計画的に実施してきました。しかし、4 施設とも築 45 年が経過しており、維持管理費用が今後さらに増加することが見込まれます。また、「淡路市公共施設等総合管理計画」では、これらの施設が長寿命化を図るため、大規模改修を実施する時期に差し掛かっていると示されています。

そのため、施設の維持管理費や運営費、保育環境の変化に対応する費用などを総合的に考慮し、現状の課題を踏まえ、新設を含めた今後の対応について基本構想の中で検討を行いました。

今後も市民の皆さまのご意見を大切にしながら、持続可能でより良い保育環境の実現に向けて取り組んでまいります。

・淡路市保育所等適正規模推進計画は、再編のメリットについて保育指導・生活指導・保育行事他・財政面の 4 側面から検討されていますが、防災面や地域コミュニティに果たす役割など、それら以外の面からも、部局横断的な検討が必要に思いました。統合した際の、送迎に対する保護者負担、道路状況への影響など、発災時の迎いの集中、などまだまだ考慮・勘案されていない項目があるのではないのでしょうか

・策定書には、「地域に開かれた保育施設」や「安全で安心して利用できる施設」など、地域や保護者、そして子どもの視点ごとに、キーワードを整理して記載しています。

今後も、淡路市らしい新しい園舎づくりを実現するために、子ども・保護者・保育士・行政、それぞれの視点を尊重し、多角的に検討を重ねていく必要があると考えています

<p>・鉄筋コンクリート造の躯体は 100 年以上使用可能です。保育所としての役割を終えるにしても、改修などを行い、長寿命化や、コンバージョンのよき実例としていただきたいです。調理室等が備わる保育所は、大規模災害時、地域の避難拠点や、配食センターとして有効に活用できるかと考えます。</p>	<p>・保育所の役割を終えた施設の利活用について、今後の取り組みにおいて参考にさせていただきます。</p>
<p>・ワークショップ当日に見せていただいた動画で、リズム遊びの実例を紹介いただきました。その中で、両耳に手を当てているお子さんがいらっしかったです。たまたま、一時的な事象なのかもしれませんが、子どもたちのなかには、一度にたくさんの情報が入ってくることや音に対する過敏さなど、発達段階で様々な特性があるかと思えます。一斉に同じことをさせることの意義もあるかもしれませんが、ひとりひとりの特性に応じ、それぞれのペースや自主性を引き出す保育・遊びの大切さも重要でないかと思えます。ワークショップで示されたように、園庭や周囲の自然をより豊かにし、安心できる環境があれば、子どもは自分たちから遊び、学び、育っていくと思っています。</p>	<p>・貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>新設こども園の整備においては、地域性を活かした保育を継承しつつ、子どもたちの多様性や発達段階に応じた配慮を重視しております。園舎については、子どもの感性や想像力を育む環境として木造園舎での整備を検討しており、同時に、園庭や周囲の自然を活用した保育環境を整えることにも努めています。</p> <p>また、全体で行う保育活動の意義を踏まえつつも、ご指摘いただいたように、子どもそれぞれの特性やペースを尊重し、自主性や個性を伸ばせる保育の実現を目指してまいります。安心できる環境の中で、子どもたちが自ら遊び、学び、成長できるよう、ソフト面（保育の質の向上）とハード面（施設整備）の両面から取り組みを進めてまいります。</p>
<p>・ワークショップが2回で終わってしまったのは適切だったのか疑問です。時間的制約が大きかったためか、中心的役割を果たすべきファシリテーターが制限時間や注意事項を述べるばかりで、参加者同士の意見の相違点に着目し、議論を深めていくチャンスが活用されず残念に感じました。</p>	<p>・今回のワークショップでは、時間配分が十分でなかった点について、申し訳なく思っております。ご指摘を真摯に受け止め、今後の運営改善に努めてまいります。</p> <p>ワークショップでの出会いを大切に、引き続き意見を出し合える場を設け、多くの方の声を反映しながら取り組みを進めていきたいと考えています。今後ともご意見をお寄せいただけますと幸いです。</p>